

第11回技術情報検討会議事概要

1. 日 時:平成26年11月17日(月) 10:00~12:15

2. 場 所:原子力規制委員会13階 会議室A

3. 出席者:

原子力規制委員会

更田委員

原子力規制庁

平野技術総括審議官、竹内原子力安全技術総括官、櫻田規制部長、大村審議官、佐藤原子力規制企画課長、山形安全規制管理官(BWR)、市村安全規制管理官(PWR)、澤田安全規制管理官(発電炉検査)、黒村安全規制管理官(新型炉・試験研究炉・廃止措置)、二宮品質管理専門官(廃棄物・貯蔵・輸送)、青木技術基盤課長、小林安全技術管理官(システム安全)、梶本安全技術管理官(シビアアクシデント)、内田安全技術管理官(核燃料廃棄物)、高松安全技術管理官(地震・津波)、深沢企画官(シビアアクシデント)、掘田主席技術研究調査官(シビアアクシデント)、河合管理官補佐(再処理・加工・使用)、阿波安全審査官(PWR)、大塚係員(PWR)

事務局

石井企画官、小林課長補佐、有吉課長補佐、伊藤専門職

日本原子力研究開発機構

渡邊規制情報分析室長

4. 議題: (1)技術情報の検討について

(2)その他

5. 議事要旨

(1)事務局より、議題(1)「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

○事務局より、「第10回技術情報検討会議事概要」(資料11-1)、「スクリーニングと要対応技術情報の状況」(資料11-2)、「2次スクリーニングの検討状況」(資料11-3)及び「要対応情報とするために更なる調査を必要とする案件」(資料11-4)について説明があり、了解された。

○「制御棒落下時間テスト中に生じた2個の制御棒クラスタの不完全な挿入」について(資料11-6)

・本事象は、集合体の構造設計、材料特性、部材の組み合わせ等が複雑に絡み合った燃料集合体の曲りが原因であると予想される。したがって、直ちに規制に反映すべき事項はなく、本件は2次スクリーニングで検討終了とする。

・ただし、引き続き調査を継続し、国内への影響について知見や情報が得られた場合には、技術情報検討会へ報告する。

○「格納容器貫通部、メカニカルシール、及びその他の機器においてテフロン®材が劣化する可能性」

について(資料11-7)

- ・国内におけるテフロン®使用の有無とその妥当性については、今後の工事計画書の審査等で確認していく。
- ・他の設備も同様の考えで進めることとし、本件は2次スクリーニングで検討終了とする。

○「計装制御モジュールのハードウェア、コンフィグレーション及び手順書の問題」について
(資料11-8)

- ・国内では、計装制御関係のトラブルは増加傾向になく、国内規制及び事業者の活動は妥当と思われることから、本件は2次スクリーニングで終了とする。

○事務局より、「要対応技術情報リスト(累積)」(資料11-9)について説明し、了解を得た。

○資料11-10、11-11を用いて、OECD/NEAが2014年度に発行した下記2件の Status Report がトピックスとして紹介された。

- ・NEA/CSNI/R(2014)8「水素対策と関係解析コードのステイタスレポート」
- ・NEA/CSNI/R(2014)7「格納容器フィルターベントのステイタスレポート」

○資料11-12を用いて、IAEA-OECD/NEA 共催の最近の事象に関する情報交換会合での報告事例が紹介された。同資料における下記の事例は、有用な教訓が得られるものと思われる。

- 25)後備変圧器の電源供給喪失
- 32)原子炉建屋サンプライナーの劣化
- 34)変圧器の故障による原子炉スクラム

(2)その他

- 事業者への注意喚起のため、海外運転経験情報に規制庁の見解を付してホームページで公開している。効果的な注意喚起ができるよう、継続して改善していく必要がある。
- 次回技術情報検討会は、平成27年1月19日を予定とする。

以上